

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	仏教漢語の解釈法：インドと中国の解釈の相違(1)										
【授業の概要・目的】											
この授業は仏教語と呼ばれる用語のうち、誰もが知っているような基本的語彙を取り上げ、その語を中国仏教史ではどのように理解するかを学ぶ。資料は漢語（漢文）であり、訓読法で読む（現代中国語は使用しない）。中心的に扱う時代は六朝隋唐時代である。中国における解釈がインド仏教における解釈と同じか異なるかをも理解するため、漢語として残るインド仏教資料である漢訳仏典における同じ語の解説も紹介し、その相違から中国仏教の考え方と用語解説の特徴について考察する。読解するテキストは複数の文献に及ぶため、教員が準備し、それを初回以降、何回かに分けて配布する。											
【到達目標】											
以下の諸点を習得し、説明できるようにする。 1．仏教書の基本である大蔵經に関する知識と使用上の留意点 2．仏教漢文の訓読法の基本 3．仏教用語の基本を身につけるために必要な基礎的資料 4．仏教漢語の特徴 漢語として読むべき部分とインド語の訳として読むべき部分 5．仏教の中国的変容に関する要点											
【授業計画と内容】											
第1回：中国仏教を学ぶために必要な工具書と基本となる研究書，電子テキストの概説 第2回：大蔵經の基礎知識，特徴，歴史 第3回：大正大蔵經を用いる時に注意すべきこと 第4回：「仏」の意味とそれを解説する基本文献 第5-7回：「經」（スートラ）の意味とそれを解説する基本文献 第8-9回：「如来」の意味を解説する基本文献 第10-12回：「真如」の意味とそれを解説する基本文献 第13回：「如是我聞」の意味とそれを解説する基本文献 第14回：前期に精読した内容の整理											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。											
【教科書】											
使用しない											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

予習：授業で精読する箇所の下調べ。自分自身の訳を準備してほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは特に設定しません。  
授業に関する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎です。授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。